

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	歴史総合	単位数	2単位
-----	------	-----	-----

1 科目の目標

<p>①世界と日本の近現代の諸事象について、広く相互的な視野から理解をふかめ、歴史に関する諸資料を適切に調べまとめる技能を身につける。</p> <p>②世界と日本の近現代の諸事情について、相互の関連や現在とのつながりに着目しながら、多面的・多角的に考察し、考察したことを説明・議論する力を養う。</p> <p>③世界と日本の近現代の諸事情について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追及・解決しようとする態度を養うとともに、自国の歴史や他国の歴史を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技術（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
評価の観点	①学習内容について理解している。 ②適切かつ効果的に情報を収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。	①学習内容について多面的・多角的に考察し、表現している。	①意欲的、主体的に理解や考察を進め、工夫してまとめ、表現しようとしている。
評価基準	a: 十分満足できる状況 b: おおむね満足できる状況 c: 努力を要する状況	a: 十分満足できる状況 b: おおむね満足できる状況 c: 努力を要する状況	a: 十分満足できる状況 b: おおむね満足できる状況 c: 努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技術（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①定期考査1～5の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答内容 ③課題などの完成度	①定期考査①～⑤の評価該当箇所の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答方法 ③課題などの完成度 ④話し合いの中での発言	①授業での説明を聞く態度や課題に取り組む態度 ②板書や説明内容をしっかり書き留めているか ③積極的に疑問点を探し解決しようとしているか ④課題などの完成度 ⑤話し合いの中での発言 ⑥生徒の自己評価

4 学習にあたってのアドバイスや注意事項

<p>日頃から新聞やニュースなどを見聞きし、社会全般に関心を持つこと。また授業を大切にし板書や説明を参考に自分なりにまとめ、まとめたことについて考え、考えたことを発表できるようにする。</p>
--

5 教科書・副教材

教科書・・・『歴史総合』（実教出版）

6 年間指導計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数	
前 期	4月	第1編 近代化と私たち	定期考査1	12	
		第1章 近代化への胎動			1 江戸時代の日本と東アジア秩序の変動
					2 江戸時代の生産・流通と諸改革
	5月	第2章 欧米の市民革命と西洋の衝撃			3 幕政の改革と東アジア世界
					4 イギリス産業革命とアメリカ独立戦争
					5 フランス革命とウィーン体制
	6月	第3章 欧米諸国と日本の国民国家形成			6 アメリカ合衆国の発展とラテンアメリカの独立
					7 オスマン帝国の衰退とロシア
					8 アヘン戦争の衝撃と日本の開国
					9 江戸幕府の滅亡
					10 イギリス・フランスの繁栄とイタリア・ドイツの統一
					11 明治政府の諸改革
	7月	第4章 帝国主義の時代			12 日本のアジア外交と国境問題
					13 自由民権運動と大日本帝国憲法
	8月	第4章 帝国主義の時代			14 帝国主義の時代へ
					15 朝鮮をめぐる国際関係と日清戦争
					16 日清戦争後の東アジア
					17 日露戦争と東アジアの変動
18 日本の産業革命					
	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち	定期考査3	20		
後 期	9月	第5章 第一次世界大戦と大衆社会	定期考査4	18	
					19 第一次世界大戦
					20 ロシア革命とソ連の成立
					21 米騒動とデモクラシー
	10月	第6章 経済危機と第二次世界大戦			22 ヴェルサイユ体制とワシントン体制
					23 アジアの民族運動
					24 第一次世界大戦後の欧米諸国
	11月	第6章 経済危機と第二次世界大戦			25 ひろがる社会運動と普通選挙の実現
					26 世界恐慌と各国の対応
					27 ファシズムの時代
					28 満州事変と軍部の台頭
	12月	第6章 経済危機と第二次世界大戦			29 日中戦争と戦時体制
					30 第二次世界大戦の勃発
					31 第二次世界大戦の終結
	1月	第6章 経済危機と第二次世界大戦			32 国際連合の成立と冷戦
					33 日本占領と日本国憲法
	2月	第3編 グローバル化と私たち			34 朝鮮戦争と日本
					第7章 冷戦と脱植民地化
第8章 多極化する時代					
第9章 グローバル化と現代世界					

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	世界史B	単位数	4単位
-----	------	-----	-----

1 教科書・副教材

高校世界史B改訂版(山川出版社)

2 科目の目標

古代から現代に至る世界の各地域の歴史と文化を学び、現代の世界情勢の史的背景を理解し、今後の世界の在り方についての考えてみる。

3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)
前 期	4月	人類の出現 オリエント世界 南アジア世界	定期考査①	26
	5月	東南アジア世界 東アジア世界		
	6月	中央ユーラシア 東アジアの変動 イスラーム世界	定期考査②	30
	7月	ヨーロッパ世界 ユーラシア大帝国の出現 東アジア地域の繁栄と成熟	定期考査③	34
	8月			
9月	大航海時代 ルネサンス 主権国家体制			
後 期	10月	産業革命 環大西洋革命	定期考査④	36
	11月	イギリスの覇権と欧米の国 民国家 アジアの変容		
	12月	帝国主義 世界大戦の時代	期末考査⑤	30
	1月			
	2月	東西冷戦から多極化へ グローバル化の進行		
3月				

4 評価の方法

古代から現代にいたる世界各地の情勢について理解を深め、自分の歴史観を持つことで、現在の世界情勢と自分たちの生活について考えることができたかを、授業中の発言や考査、提出物等で総合的に評価する。

5 学習にあたっての注意とアドバイス

- ※
- ・授業には欠席や遅刻をせず毎回きちんと出席すること。
 - ・授業の内容をしっかりと聴き、ノートをとって学習を深めること。

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	日本史 A	単位数	2単位
-----	-------	-----	-----

1 教科書・副教材

教科書 新日本史 A (実教出版)

2 科目の目標

日本の近代史・現代史を学ぶことにより、現代の日本と世界が直面している政治、経済、社会、文化等の課題について、自分なりの見方、考え方ができるようにする。

3 学習の計画

		学 習 の 内 容		考査範囲	時数(予定)		
前 期	4月	近代国家と社会の形成	世界と東アジア 近代国家の誕生 近代社会の形成	定期考査①	12		
	5月	二つの戦争と大日本帝国	日清戦争と日露戦争 帝国形成期の社会				
	6月	帝国とデモクラシー	大正デモクラシー ヴェルサイユ体制とロシア革命	定期考査②	18		
	7月						
	8月			デモクラシーの展開と帝国の変容	都市化と市民文化 東アジアの情勢と恐慌	定期考査③	20
9月	アジアの戦争と第二次世界大戦	日中15年戦争 アジア太平洋戦争	定期考査④	18			
後 期	10月	現代日本の源流			戦後世界と日本 冷戦と日米安保体制		
	11月	冷戦のなかの経済成長			高度経済成長下の日本 経済大国		
	12月	現代の日本			転換した世界のしくみ 現代日本の課題	期末考査⑤	10
	1月						
2月							
3月							

4 評価の方法

授業や課題に主体的に取り組むことができたか、また歴史の大きな流れやその背景が理解できたかを出席状態や授業態度、提出物、考査などにより総合的に評価する。

5 学習にあたっての注意とアドバイス

※ 毎時間の授業を大切に、授業プリントには自分なりの言葉で記入する。教科書等の図表や史料を読み取り、自身の考察を深めるようにする。

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	日本史B	単位数	4単位
-----	------	-----	-----

1 教科書・副教材

改訂版 高校 日本史B(実教出版)

2 科目の目標

日本の原始・古代から現代までの全時代を学び、自分なりの歴史の見方、考え方を培うことで、現代の日本、世界が直面している政治、経済、社会、文化等について自分なりの見方、考え方ができるようにする。

3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)
前 期	4月	原始・古代 文化と国家の形成	定期考査①	26
	5月	古代国家の確立		
	6月	中世 中世社会の成立	定期考査②	30
	7月	中世社会の展開	定期考査③	30
	8月			
9月	近世 統一政権の成立			
後 期	10月	幕藩体制の展開	定期考査④	36
	11月	近代国家の成立		
	12月	大日本帝国の形成 大日本帝国の展開 15年戦争と日本・アジア	期末考査⑤	34
	1月	現代 戦後改革と高度経済成長		
	2月			
	3月			

4 評価の方法

日本の歴史の大きな流れや各時代の特色を把握することができたかを確認する。授業について、主体的に取り組んでいるか、出席や授業態度、提出物、考査などから総合的に評価する。

5 学習にあたっての注意とアドバイス

※ 毎時間の授業を大切に、板書を参考に自分なりのノートを作成する。また教科書等の写真や図など史料を読み取り、自分なりの歴史的考察を深めるようにする。

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	地理総合	単位数	2単位
-----	-------------	-----	-----

1 科目の目標

<p>①世界の生活文化の多様性や、防災など地理的諸課題への取組などを理解し、地図や地理情報システムなどを用いて、情報を適切で効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>②地理的事象の特色や意味、関連性などを、位置や分布・人間と自然環境との依存関係などに着目し、多面的・多角的に考察し、地理的諸課題の解決に向け構想する力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、議論したりする力を養う。</p> <p>③よりよい社会の実現に向け、地理的諸課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技術（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
評価の観点	①学習内容について理解している。 ②適切かつ効果的に情報を収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。	①学習内容について多面的・多角的に考察し、表現している。	①意欲的、主体的に理解や考察を進め、工夫してまとめ、表現しようとしている。
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技術（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①定期考査1～5の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答内容 ③課題などの完成度	①定期考査①～⑤の評価該当箇所の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答方法 ③課題などの完成度 ④話し合いの中での発言	①授業での説明を聞く態度や課題に取り組む態度 ②板書や説明内容をしっかり書き留めているか ③積極的に疑問点を探し解決しようとしているか ④課題などの完成度 ⑤話し合いの中での発言 ⑥生徒の自己評価

4 学習にあたってのアドバイスや注意事項

<p>日頃から新聞やニュースなどを見聞きし、社会全般に関心を持つこと。また授業を大切にし板書や説明を参考に自分なりにまとめ、まとめたことについて考え、考えたことを発表できるようにする。</p>
--

5 教科書・副教材

教科書・・・『高校生の地理総合』（帝国書院）

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数
前 期	4月	第1部 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 第1章 地図や地理情報システムと現代世界	定期考査1	12
	5月			
	6月	第2章 結びつきを深める現代世界	定期考査2	18
	7月			
	8月	第2部 国際理解と国際協力 第1章 世界文化の多様性と国際協力	定期考査3	20
	9月			
後 期	10月	第3節 世界の産業と人々の生活 ①生活を支える農業の発展 ②生活を支える工業の発展	定期考査4	18
	11月			
	12月	第2章 地球的課題と国際協力 第1節 人口問題 ①人口増加と少子高齢化 ②地域で異なる人口問題と取り組み 第2節～第6節 地理に関わる諸問題 食料、都市、感染症、資源・エネルギー、地球環境など	定期考査5	10
	1月			
	2月	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災については第2部に組み込んで学習する 第2章 生活圏の調査と地域の展望については第2部に組み込んで学習する		

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	地理B	単位数	4単位
-----	-----	-----	-----

1 教科書・副教材

教科書	新詳地理B (帝国書院)
地図帳	標準高等地図-地図でよむ現代社会- (帝国書院)

2 科目の目標

世界の地形と気候を学ぶことにより各地域の特徴を知り、現代文化の形成の背景を考え、様々な観点から世界をみる素養を養う。

3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)
前 期	4月	地図の種類・活用法 自然環境	定期考査①	24
	5月	世界観の変遷・各図法・時差 内的営力による世界の大地形 プレート運動、造山帯、火山活動 地形図の見方・読み方		
	6月	世界的な気候環境 外的営力による身近な地形 山地の地形、平野の地形 海岸の地形、特殊な地形	定期考査②	36
	7月	気温・降水・風 局地的な気候、異常気象 気候と植生・土壌	定期考査③	40
	8月	熱帯気候、乾燥気候 温帯気候		
	9月	日本での自然環境 亜寒帯気候、寒帯気候、高山気候 日本の地形・気候と自然災害 災害と防災		
		資源・産業	世界の農林水産業・食糧問題 世界のエネルギー・鉱産資源 世界の工業	
後 期	10月	産業活動 (2)	定期考査④	36
	11月	人口問題・村落と都市 生活文化・民族・宗教		
	12月	世界の地域の地誌	期末考査⑤	20
	1月	第3次産業 交通通信と世界の結びつき それぞれの特色と機能		
	2月	世界の衣食住の地域的差異 民族と宗教 現代国家の諸問題		
	3月	東アジアの地誌 東南アジアの地誌 南アジアの地誌 西アジア・北アフリカの地誌 中南アフリカの地誌 ヨーロッパの地誌 ロシアの地誌 アングロアメリカの地誌 ラテンアメリカの地誌 オセアニアの地誌		

4 評価の方法

授業に主体的に取り組み、系統地理および地誌の基本的な知識や地理的な見方・考え方が身についたかどうかを考査、作業課題、レポート課題などから総合的に評価する。

5 学習にあたっての注意とアドバイス

※ 地図帳を毎時間持参し、地図を通して学習を深めることが大切である。

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	地域の歴史・地理	単位数	2単位
-----	-----------------	-----	-----

1 科目の目標

地歴科目全般の学習内容を復習・活用しながら、地域の身近な事象についてその歴史や地理的背景について理解や考察を多角的に進め、諸問題を解決する方向に向けて構想し、理解した内容や構想したことを実証的にまとめ、発表する。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技術（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
評価の観点	①学習内容について理解している。 ②適切かつ効果的に情報を収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。	①学習内容について多面的・多角的に考察し、表現している。	①意欲的、主体的に理解や考察を進め、工夫してまとめ、表現しようとしている。
評価基準	a: 十分満足できる状況 b: おおむね満足できる状況 c: 努力を要する状況	a: 十分満足できる状況 b: おおむね満足できる状況 c: 努力を要する状況	a: 十分満足できる状況 b: おおむね満足できる状況 c: 努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技術（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①提出されたレポートの成績 ②授業中の発問への回答 ③課題などの完成度	①定期考査①～⑤にあたり提出するレポートの評価該当箇所の成績 ②授業中の発問への回答 ③課題などの完成度 ④話し合いの中での発言	①授業での説明を聞く態度や課題に取り組む態度 ②板書や説明内容をしっかり書き留めているか ③積極的に疑問点を探し解決しようとしているか ④課題などの完成度 ⑤話し合いの中での発言 ⑥生徒の自己評価

4 学習にあたってのアドバイスや注意事項

日頃から新聞やニュースなどを見聞きし、社会全般に関心を持つこと。また授業を大切にし板書や説明を参考に自分なりにまとめ、まとめたことについて考え、考えたことを発表できるようにする。

5 教科書・副教材

適宜資料をコピーして配布。紹介資料を読むことが望ましい。

6 年間指導計画

		学 習 の 内 容		考査範囲	時数(予定)
前 期	4月	中信地区の自然環境	中信地区の気候・地形の特質	定期考査①	12
	5月	歴史区分について 身近な事象紹介②	古代・中世・近世・近代の区分について 地域の寺社とその由来 地域の祭事・催事 地域の歴史的建造物 近世の歴史事象		
	6月	身近な事象紹介③	地域の食と全国的つながり 地域の文化史 地域の教育史	定期考査②	18
	7月	身近な事象紹介④	地域の産業史 近代の地域の政治史	定期考査③	20
	8月		各自のテーマ設定 文献購読		
	9月	文献資料の扱い方 文献調査と経過	ゼミナール形式での持ち回り発表		
後 期	10月	フィールドワークの仕方	フィールドワークの方法 フィールドワークの実践 (歴史の里見学)	定期考査④	18
	11月	文献調査と経過報告	各自の課題に必要な文献を読みながら報告時点での経過を報告す		
	12月	論述		期末考査⑤	10
	1月	論述			
	2月	発表	全員が、自分の書いた調査報告を発表する。		
	3月				

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	倫理	単位数	2単位
-----	----	-----	-----

1 科目の目標

①考察・選択・判断の手掛かりとなる事実・概念・理論を理解し、先人の思想の中から必要な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることを通じて自らの思索を深める技術を身に付ける。
 ②人間としてのあり方生き方における諸課題の解決に向けて、過去の人類の思想的積み重ねをもとに多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、より深い人間理解に基づき社会に参画しようとする意志を高める
 ③よりよい人間としてのあり方生き方を追求し、現代社会における人間の倫理的な諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	①学習内容について理解している。 ②適切かつ効果的に情報を収集し、読み取り、まとめる技術を身に付ける。	①学習内容について多面的・多角的に考察し、表現している。	①意欲的、主体的に理解や考察を進め、工夫してまとめ、表現しようとしている。
評価基準	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

	知識・技術(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
	①定期考査1～5の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答内容 ③課題などの完成度	①定期考査①～⑤の評価該当箇所の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答方法 ③課題などの完成度 ④討議の中での発言	①授業での説明を聞く態度や課題に取り組む態度 ②板書や説明内容をしっかり書き留めているか ③積極的に疑問点を探し解決しようとしているか ④課題などの完成度 ⑤討議の中での発言

4 学習にあたってのアドバイスや注意事項

自分自身のふだんの生活において、それぞれの行為や思索が、自分自身のよりよいあり方や生き方とどう結びついてくるのか、自覚しながら過ごす姿勢が重要です。先人の思想や思索の課題を単に知識としてだけでなく、自分自身のこれからの生き方に生かせるように主体的に学習していきましょう。

5 教科書・副教材

教科書・・・『高等学校倫理』（第一学習社・倫理705）

6 年間指導計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数			
期前	4月	第1編 現代に生きる自己の課題と人間としてのあり方生き方	定期考査①	13			
		第1章 人間の心と自己形成			1 青年期の課題と自己形成		
	5月	第2章			1 ギリシアの思想 2 ユダヤ教とキリスト教 3 イスラーム		
		6月			人間の存在や価値と宗教	4 仏教 5 中国の思想 6 宗教や芸術	
	7月				第3章	1 人間の尊厳 2 科学革命の時代と自然観 3 自由で平等な社会の実現	
		8月			人間のあり方と社会	4 人間性の回復と主体性の確立 1 現代の思想と人間像	
期後	9月	第4章 現代の人間と社会をとらえる思想	定期考査③	16			
	10月	第5章 国際社会に生きる日本人としての自覚			1 日本固有の思想 2 外来思想の受容 3 町人意識の目覚めと庶民思想 4 西洋思想との出会い		
		11月			第2編 現代の諸課題と倫理	定期考査④	18
	12月	第1章 自然や科学技術にかかわる諸課題と倫理			1 生命の問題と倫理課題 2 地球環境の問題と倫理的課題 3 科学技術の進展と倫理的課題		
		1月			第2章 社会と文化にかかわる諸課題と倫理		
2月			定期考査⑤	16			

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	政治・経済	単位数	2単位
-----	-------	-----	-----

1 教科書・副教材

教科書 最新 政治・経済 新訂版 (実教出版)

2 科目の目標

○社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる。

○国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養わせる。

○よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めさせる。

3 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技術 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
評価の観点	①学習内容について理解している。 ②適切かつ効果的に情報を収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。	①学習内容について多面的・多角的に考察し、表現している。	①意欲的、主体的に理解や考察を進め、工夫してまとめ、表現しようとしている。
評価基準	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

4 評価方法と評価の場面

知識・技術 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
①定期考査1～5の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答内容 ③課題などの完成度	①定期考査①～⑤の評価該当箇所の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答方法 ③課題などの完成度 ④話し合いの中での発言	①授業への出席状況及び授業での説明を聞く態度や課題に取り組む態度 ②板書や説明内容をしっかり書き留めているか ③積極的に疑問点を探し解決しようとしているか ④課題などの完成度 ⑤話し合いの中での発言 ⑥生徒の自己評価

5 学習の計画

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数 (予 定)	
前 期	4月	現代の国際社会	国際政治の動向と課題 ○国際社会と国際法○国際社会の変化 ○国際連合と国際協力	定期考査①	13
	5月		○こんにちの国際政治 ○人種・民族問題 ○軍拡競争から軍縮 ○日本の外交と国際社会での役割		
	6月	現代社会の経済	現代の経済社会 ○経済活動、経済社会 ○経済の主体 企業の役割	定期考査②	15
	7月		○国民所得、経済成長と国民の福祉 ○金融の役割、日本銀行の役割 ○財政の役割と租税、課題	定期考査③	17
	8月		現代の日本経済と福祉の向上 ○日本経済の成長と課題 ○中小企業と農業、消費者問題		
9月		○公害防止と環境保全 ○労働問題 ○社会保障の役割と課題			
後 期	10月	現代日本の政治	現代国家と民主政治 ○民主政治 ○世界の主な政治制度	定期考査④	18
	11月		日本国憲法と基本的人権 ○日本国憲法の成立、基本原理 ○基本的人権の保障		
	12月		○平和主義 日本の政治制度と政治参加 ○国会・内閣・裁判所、地方自治、		
	1月	現代の国際経済	○政党政治、選挙制度、世論 国際経済理論 ○貿易と国際収支、外国為替市場	期末考査⑤	15
	2月		国際経済の動向と課題 ○国際経済、新公庫奥の台頭 ○経済のグローバル化とICTで変わる世界経済 ○発展途上国の課題と展望 ○地球環境問題、資源エネルギー問題 ○経済協力と日本の役割		
3月					

6 学習にあたっての注意とアドバイス

新聞やニュースを見て、社会事象全般に関心を持つことが大切である。また授業を大切にし板書や説明を参考に自分なりにまとめ、まとめたことについて考え、考えたことを発表できるようにする。他の生徒の考えを聞き、さらに探求し、自分の考えを深めていくことが必要です。

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	教養社会	単位数	2 単位
-----	-------------	-----	------

1 科目の目標

地歴公民科目全般の学習内容を復習、活用しながら国内外における現代の諸問題の原因や現状について理解や考察を多角的に進め、諸問題を解決する方向に向けて構想し、理解した内容や構想したことを発表する。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技術 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
評価の観点	①学習内容について理解している。 ②適切かつ効果的に情報を収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。	①学習内容について多面的・多角的に考察し、表現している。	①意欲的、主体的に理解や考察を進め、工夫してまとめ、表現しようとしている。
評価基準	a: 十分満足できる状況 b: おおむね満足できる状況 c: 努力を要する状況	a: 十分満足できる状況 b: おおむね満足できる状況 c: 努力を要する状況	a: 十分満足できる状況 b: おおむね満足できる状況 c: 努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技術 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
①定期考査1～5の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答内容 ③課題などの完成度	①定期考査①～⑤の評価該当箇所の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答方法 ③課題などの完成度 ④話し合いの中での発言	①授業での説明を聞く態度や課題に取り組む態度 ②板書や説明内容をしっかり書き留めているか ③積極的に疑問点を探し解決しようとしているか ④課題などの完成度 ⑤話し合いの中での発言 ⑥生徒の自己評価

4 学習にあたってのアドバイスや注意事項

日頃から新聞やニュースなどを見聞きし、社会全般に関心を持つこと。また授業を大切にし板書や説明を参考に自分なりにまとめ、まとめたことについて考え、考えたことを発表できるようにする。

5 教科書・副教材

教科書・・・『テーマ別資料公共2023』（とうほう）

6 年間指導計画

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数
前 期	4月	I. 国際社会 1. 国際対立と地域紛争	定期考査1	12
	5月	①対立、戦争 A. 冷戦から新冷戦へ B. 対立や戦争の状況と原因 アメリカとイラン・イラク・アフガニスタン、 同時多発テロ、ウクライナ戦争など		
	6月	②不安定な東アジア情勢 A. 朝鮮戦争 B. 中国・台湾問題 C. 南沙諸島問題	定期考査2	18
	7月	③日本の領土問題 A. 尖閣諸島 B. 竹島 C. 北方領土 D. ドイツの領土問題		
	8月	2. 核兵器・軍縮問題 ①核兵器の歴史と現状 ②核兵器を捨てられないのはなぜか ③核軍縮・核廃絶への道		
8月	3. 国際連合と地域統合 ①国際連合 ②EUなど	定期考査3	20	
後 期	9月	II. 現代政治 1. 民主政治の原理	定期考査4	18
	10月	①民主政治の基本原理と民主政治の歩み ②民主政治の歴史と原理 ③世界の政治体制（アメリカ・イギリス・中国など） ④民主政治の原理と日本国憲法 2. 国会 ①日本の国会のしくみと働き ②選挙と政治、政党と政治		
	11月	III. 現代経済 1. 日本の財政問題	定期考査5	10
	12月	①財政のしくみと機能 ②日本の財政の現状（一般会計の特徴） ③日本の借金とその原因 ④日本の租税の特徴と問題点		
	1月	2. 日本の社会保障問題 ①生存権と社会保障の歴史 ②日本の社会保障制度 A. 少子高齢化と社会保障の財源 B. 社会保険の特徴と問題点		
	2月	3. 日本の労働問題 ①労働基本権と労働三法、労働組合の意義 ②労働条件の改善 A. 労働基準法 B. 様々な雇用形態と労働形態 C. 雇用、失業、賃金などの状況 ③非正規雇用 ④男女格差		
	2月	4. エネルギーと環境問題 ①地球環境問題 ②原子力発電		



令和4年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	公共	単位数	2単位
-----	----	-----	-----

1 科目の目標

<p>①考察・選択・判断の手掛かりとなる概念・理論を理解し、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。</p> <p>②現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意を形成し社会に参画することを視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>③よりよい社会の実現をめざし、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、人間としての在り方・生き方について考え、主権者として自国の平和や繁栄を図り、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>
--

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技術 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
評価の観点	①学習内容について理解している。 ②適切かつ効果的に情報を収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。	①学習内容について多面的・多角的に考察し、表現している。	①意欲的、主体的に理解や考察を進め、工夫してまとめ、表現しようとしている。
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技術 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
①定期考査1～5の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答内容 ③課題などの完成度	①定期考査①～⑤の評価該当箇所 の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答方法 ③課題などの完成度 ④話し合いの中での発言	①授業での説明を聞く態度や課題に取り組む態度 ②板書や説明内容をしっかり書き留めているか ③積極的に疑問点を探し解決しようとしているか ④課題などの完成度 ⑤話し合いの中での発言 ⑥生徒の自己評価

4 学習にあたってのアドバイスや注意事項

<p>日頃から新聞やニュースなどを見聞きし、社会全般に関心を持つこと。また授業を大切にし板書や説明を参考に自分なりにまとめ、まとめたことについて考え、考えたことを発表できるようにする。</p>
--

5 教科書・副教材

教科書・・・『公共』（実教出版）

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数
前 期	第1部 公共の扉		定期考査1	13
	4月	第1章 ①青年期の心理特性とアイデンティの確立 社会を作る私たち ②職業生活と社会参加 ③伝統・文化と価値観形成		
	5月	第2章 ①古代ギリシアの人間観 人間としてよく生きる ②科学と人間 ③自由 ④より善い社会を形成する	定期考査2	15
	6月	第3章 ①個人と社会全体の幸福 他者とともに生きる ②相互に尊重しあう公正な社会		
	7月	第4章 ①人間の尊厳と平等 民主社会の倫理 ②自由・権利と責任・義務	定期考査3	16
	7月	第5章 ①民主政治の成立 民主国家における基本原理 ②個人の尊重、法の支配などの基本原理 ③民主政治の課題 ④世界の主な政治制度		
	第2部 よりよい社会の形成に参加する私たち		定期考査4	18
8月	第1 現代の民主政治と日本国憲法 第1章 ①日本国憲法の成立と基本的性格 日本国憲法の基本的性格 ②様々な人権と公共の福祉 ③平和主義とわが国の安全			
後 期	9月	第2章 ①三権分立とあ 日本の政治機構と政治参加 ②現代政治の諸課題 ③地方自治の役割 ④政党政治と選挙制度 ⑤公正な世論形成と政治参加	定期考査5	16
	10月	第2 現代の経済社会と国民生活 第1章 ①経済主体と経済活動の意義 現代の経済社会 ②経済社会の変容 ③市場経済の特徴と問題 ④金融の役割と課題 ⑤財政・租税の役割と課題		
	11月	第2章 ①戦後日本経済の変化と課題 日本経済の特色 ②農業と食糧問題 ③消費者問題 ④環境問題 ⑤労働問題 ⑥社会保障の役割と課題	定期考査5	16
	12月	第3 国際社会と人類の課題 第1章 ①国際社会と国際法の意義 国際政治の動向と課題 ②国際連合 ③国際政治の諸問題と日本の役割		
	1月	第2章 ①貿易と国際収支、外国為替市場のしくみ 国際経済の動向と課題 ②第二次世界大戦後の国際経済の変化、 グローバルに関わる課題	定期考査5	16
2月	第2部 よりよい社会の形成に参加する私たち 持続可能な社会作りの主体となる私たち			

令和4年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	時事問題	単位数	2単位
-----	------	-----	-----

1 教科書・副教材

図書館の書籍や新聞、雑誌やインターネット上のニュース動画を活用する。また、文献資料を適宜資料をコピーして配布する。

2 科目の目標

様々な科目で学習した知識・技能をもとに、国内外における諸事件・事象のについて深く掘り下げ、考察することで、現代の社会についての理解を深める。

3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数 (予 定)	
前 期	4月	現代の日本と世界 ・学習の進め方 毎週はじめに先週までのニュースを取り上げその原因や事件・事象の過程や背景について考察を深める。	定期考査①	13	
	5月			定期考査②	15
	6月		定期考査③		15
	7月				定期考査④
	8月				
9月	年間学習のまとめ 年間を通じて最も興味・関心をもった事件や事象を取り上げて、考察しレポートとしてまとめる。	期末考査⑤	17		
10月					
11月					
12月					
後 期	1月				
	2月				
	3月				

4 評価の方法

授業への参加や提出物等の内容から、授業の内容が理解できたか、またそれらについて考察ができたかを総合的に評価する。

5 学習にあたっての注意とアドバイス

※ 日頃から積極的にニュースや新聞に触れて、事件や事象の概要・現状を正確につかもうとすることが重要です。

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	社会研究	単位数	2単位
-----	------	-----	-----

1 教科書・副教材

図書館の書籍や新聞を活用する。また、適宜資料をコピーして配布する。

2 科目の目標

様々な科目で学習した知識・技能をもとに、国内外における諸課題の中からテーマを選び、それについて深く掘り下げ、解決の方法を考察することで、現代の社会についての理解を深める。

3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数 (予 定)	
前 期	4月	現代の日本と世界	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の年間計画 ・ 現代の日本と世界の状況を把握する ・ 現代の日本および世界の課題の中から各自がテーマを選択する ・ 調査、研究の方法について学ぶ (文献調査、フィールドワーク、インターネットによる調査) 	定期考査①	13
	5月				
	6月			定期考査②	15
	7月			定期考査③	15
	8月				
	9月	調査、研究の方法			
後 期	10月	調査、研究の準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査の実践 ・ 分析とまとめ ・ 研究成果の発表 	定期考査④	18
	11月	調査研究の実践			
	12月			期末考査⑤	17
	1月				
	2月				
	3月				

4 評価の方法

授業への参加や提出物等の内容から、授業の内容が理解できたか、またそれらについて考察ができたかを総合的に評価する。

5 学習にあたっての注意とアドバイス

※

日頃から少しでもニュースや新聞に触れて、社会の概要・現状を知ることが大切です。

令和5年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	国際社会と情報	単位数	1単位
-----	---------	-----	-----

1 教科書・副教材

適宜資料をコピーして配布。

2 科目の目標

現代社会の情報化の観点から、国内外における現代の諸問題について関心を持つとともに主体的に考え、情報化社会を生きる力を養う。

3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数 (予 定)	
前 期	4月	情報化社会の課題	産業構造の変化 社会生活の変化と課題	定期考査1	6
	5月				
	6月	国際社会の現状と課題	国際経済の仕組み 国際政治の現状	定期考査2	9
	7月				
8月	日本経済の歩み 日本の農業と食糧問題 労働問題 貿易の仕組み	定期考査3	10		
9月					
後 期	10月	情報技術の仕組み	課題の調査 レポートの作成	定期考査4	9
	11月				
	12月				
	1月	発表とまとめ	プレゼンテーション準備 レポートの発表	定期考査5	5
	2月				
3月					

4 評価の方法

授業への参加や作成課題等の内容から、授業の内容が理解できたか、ねらいとする知識や技能が身についたかを総合的に評価する。

5 学習にあたっての注意とアドバイス

※ 日頃から少しでもニュースや新聞に触れて、社会の概要・現状を知ろうとすることが大切です。